

新型コロナウイルス感染症対策について

1 患者発生状況

(1) 患者数

直近の状況（発表日ベース）

2月15日～2月16日 33人（前週の同日比 -17人, -34%）

	期間	月	火	水	木	金	土	日
今週	2/15～2/21	2/15	2/16	2/17	2/18	2/19	2/20	2/21
	感染者数	12	21					
	累計/週	12	33					
	先週比（累計）	-6	-17					
	先週比（%）	-33%	-34%					
先週	2/8～2/14	2/8	2/9	2/10	2/11	2/12	2/13	2/14
	感染者数	18	32	37	16	17	26	9
	累計/週	18	50	87	103	120	146	155
先々週	2/1～2/7	2/1	2/2	2/3	2/4	2/5	2/6	2/7
	感染者数	36	66	35	40	41	32	15
	累計/週	36	102	137	177	218	250	265

- ・ 2月16日（火）19時現在、感染者数の累計は5,940件。11月以降の新規感染者数は急激に増加（+4,713件（1月のみで+2,101件））している。
- ・ 9月25日以降では4,974件（34.3件/日）となり、3月3日から5月20日に発生した285件（3.6件/日）の約9.5倍、6月23日から9月23日に発生した681件（7.3件/日）の約4.7倍となっている。

患者発生状況



	3/3～5/20	6/23～9/23	9/25～2/16
陽性件数 (1週間最大)	67件(4/6～4/12)	135件(8/6～8/12)	580件(1/7～1/13)
感染源判明率	75.8%(216/285)	59.3%(404/681)	64.0%(3,184/4,974)
無症状率	3.5%(10/285)	18.9%(129/681)	19.9%(988/4,974)
市内入院者数 (うち重症者)	4/25(ピーク時) 106人(9人)	8/23時点(ピーク時) 72人(8人)	2/16時点(直近) 141人(8人)

11月～1月の感染者数

11月	661
12月	1,529
1月	2,101

直近3週間の感染者数(発表日)

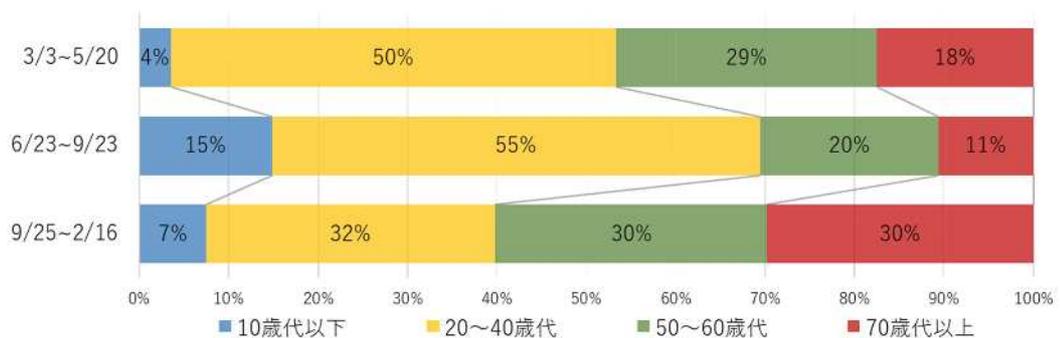
先々週(1/27～2/2)	452
先週(2/3～2/9)	213
今週(2/10～2/16)	138

- ・1月の陽性患者は、11月と比較すると約3.2倍、12月と比較すると約1.4倍
- ・直近1週間(2/10～2/16)の感染者(発表日ベース)の累計は138件
- ・先週(2/3～2/9)の213件、先々週(1/27～2/2)の452件と比較して、減少傾向にある。

(2) 年代別の発生割合

- ・年代別では、6月23日から9月23日までは、20～40代を中心に感染が拡大していたが、9月25日以降は、発生患者数も多く、医療機関、高齢者施設での発生が増えていることから、重症化リスクの高い高齢者層での感染割合も高くなっている。

年代別発生者数内訳



(3) 年代別の発生届出状況（1/1～1/31の累計）と重症者数

- ・1月の年代別の発生数では、20歳代が346件と最も多い。20代から50代の働く世代の発生が多くなっている。
- ・感染者数の増加に伴い、重症者の人数は大きく増加し、第1波で15人、第2波で43人、第3波では167人と増加している。そのうち20代から50代の働く世代の重症患者も第1波6人、第2波9人、第3波38人と増加している。
（第3波の中においても、10月の3人、11月は8人、12月は16人、1月は11人で推移している。）



※市外在住者を含む

年代別重症患者（中央市民病院）

	20歳未満	20代	30代	40代	50代	小計	60代	70代	80代	90代	合計
第1波	0	1	1	1	3	6	2	4	3	0	15
第2波	1	2	0	2	5	9	9	8	11	6	43
第3波	0	0	4	9	26	39	37	64	32	8	180
10月	0	0	0	2	1	3	1	7	7	1	19
11月	0	0	0	0	8	8	11	13	8	2	42
12月	0	0	3	5	8	16	13	19	12	2	62
1月	0	0	1	2	9	12	12	25	5	3	57

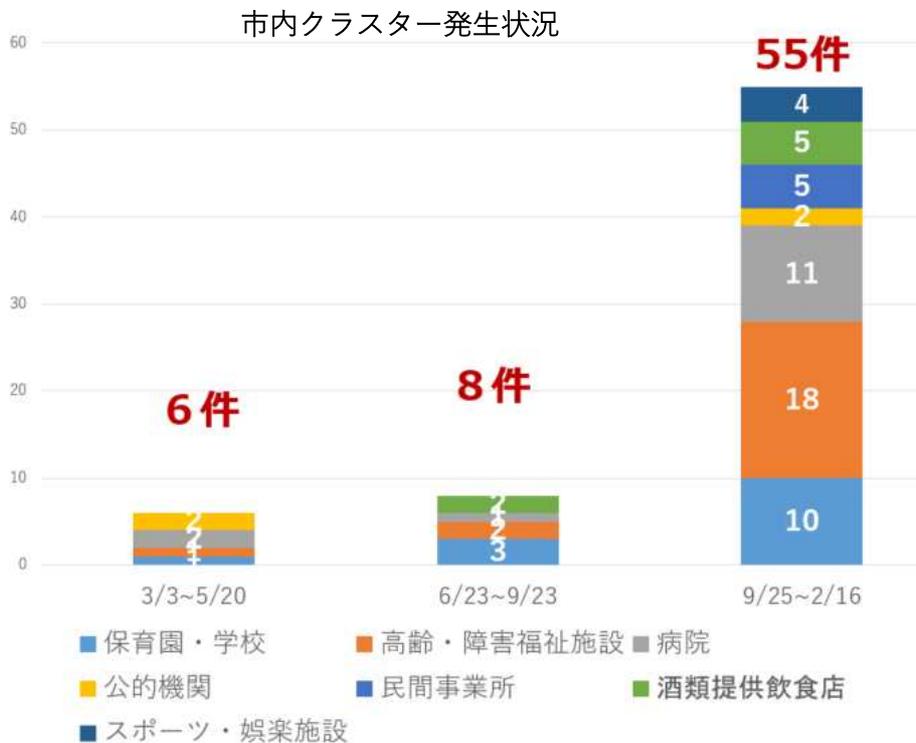
年末年始以降、自宅待機者（主に高齢者）が重症化した後に搬送されるケースが増えている。治療のタイミングを失うと、重症化率が高くなるため、入院期間が長くなってしまふ。これにより限られたベッドが占有されることになり、1月においては、結果的に重症患者の受け入れ人数を減らさざるをえない状況となっている。

(4) クラスターの発生状況

- ・クラスターの発生状況としては、2月16日現在、累計で69件。
- ・9/25以降では55件のクラスターが発生。

(10月に3件、11月に11件、12月に16件、1月に17件、2月は既に8件発生)

- ・様態が多様化し、これまでになかった民間事業所やスポーツ・娯楽施設（ボクシングジム・劇場）等でも発生したほか、福祉施設、病院での発生が増えている。（患者の総数は病院、福祉施設が全体の81%）
- ・第1波などと比べ、感染拡大の速度が速く、クラスター化のスピードも速い。
市内での感染者数が増加しているため、感染した職員などにより、病院に広がるケースが多くなっていると考えられる。
- ・感染している場合でも症状が軽いため、早期に発見することが困難な場合も多く、拡大した後に把握される事例があると考えられる。



	件数				患者数	
	3/3~5/20	6/23~9/23	9/25~2/16	計	全期間	割合
保育園・学校	1	3	10	14	144	8.6%
高齢・障害福祉施設	1	2	18	21	509	30.5%
病院	2	1	11	14	836	50.1%
公的機関	2	0	2	4	48	2.9%
民間事業所	0	0	5	5	45	2.7%
酒類提供飲食店	0	2	5	7	49	2.9%
スポーツ・娯楽施設	0	0	4	4	36	2.2%
合計	6	8	55	69	1667	

2 医療提供体制

(1) 医療提供体制の現状

入院・入所・自宅療養者数の直近の比較

	直近の火曜日			【参考】 過去の入院・入所患者ピーク (6月～9月) (3月～5月)	
	2/16	2/9	差	8/23	4/25
入院・入所患者	167人	226人	-59	96人	140人
入院患者数	141人	174人	-33	72人	106人
（うち重症）	(8人)	(14人)	-6	(8人)	(9人)
宿泊療養施設入所患者	26人	52人	-26	24人	34人
自宅療養者	65人	108人	-43	—	—
入院調整中	89人	122人	-33	50人	14人
（うち福祉施設、 指定外病院で待機）	(62人)	(69人)	-7		

※市内在住者の数字

- ・入院が必要な患者については、適切な感染予防策が取れる市内医療機関へ入院するとともに、軽症または無症状の患者については、医師の判断により宿泊療養施設に入所している。また、1月21日より当面の間、宿泊療養施設の入所よりも、自宅での療養が適切な方については一定の条件を設けて自宅療養を実施している。
- ・2月8日、市内では、感染症指定医療機関である中央市民病院及び適切な感染予防策がとれる市内医療機関の連携により、合計で211床（うち重症患者向け41床）を確保。
- ・現時点の市内病床使用率（市外在住者含む）は70.1%（148床/211床）である。入院調整中は89人、うち、感染者の発生した病院・福祉施設で入院調整中のため引き続き待機中が62人という状況である。

○確保病床数

	1月22日時点	追加病床	2月8日
市民病院機構	97	28	125
中央市民病院	46※	0	46
西市民病院	28	15	43
西神戸医療センター	23	13	36
その他の医療機関(15病院)	63	23	86
合計(18病院)	160	51	211

※臨時病棟 36 床，感染症病棟 10 床

○市民病院での医療制限

	外来	入院	手術
中央	影響なし	2割程度削減	2～3割程度削減
西	影響なし	4割程度削減	4割程度削減
西神戸	影響なし	2割程度削減	2割程度削減

※救急外来について

ウォークイン：各病院とも通常どおり

救急搬送：対応可能な病床の範囲内で受け入れ

○重症患者病床使用率(2/16時点) 56.1%(23床/41床)

うち重症者のみの使用率 24.4%(10床/41床)

(内訳)

- 中央市民病院(重症者専用病床)：22床/36床

重症(1西A)	9人	計22人
中軽症～重症(1西B)	13人	

- 神戸大学附属病院の重症者専用病床：1床/5床



※市外在住者を含む

（2）宿泊療養施設の現状

- ・医療機関の負担を軽減し、新たな入院患者の病床を確保するため、市内3施設において合計298室を確保
- ・2月16日時点で、31名入所中であり、全体の占有率は10.4%

施設名	入所状況 (2/16 17時 時点)
ニチイ学館 ポートアイランド宿泊棟 令和2年4月11日～	8室/100室 (8%)
東横INN 神戸三ノ宮駅市役所前 令和2年8月19日～	16室/110室 (15%)
東横INN 神戸三ノ宮 I 令和2年12月19日～	7室/88室 (8%)

※市外在住者を含む

(3) 自宅療養の現状

・入院の優先度の高い患者への対応を強化し、重症化リスクの高い方への入院調整に注力するため、一定の条件を設け自宅療養を実施している。自宅療養にあたっては、各保健センターが健康観察を行い、急変に対応している。

○自宅療養者対象

宿泊療養施設の入所よりも、自宅での療養が適切な者で、①かつ②を満たす者

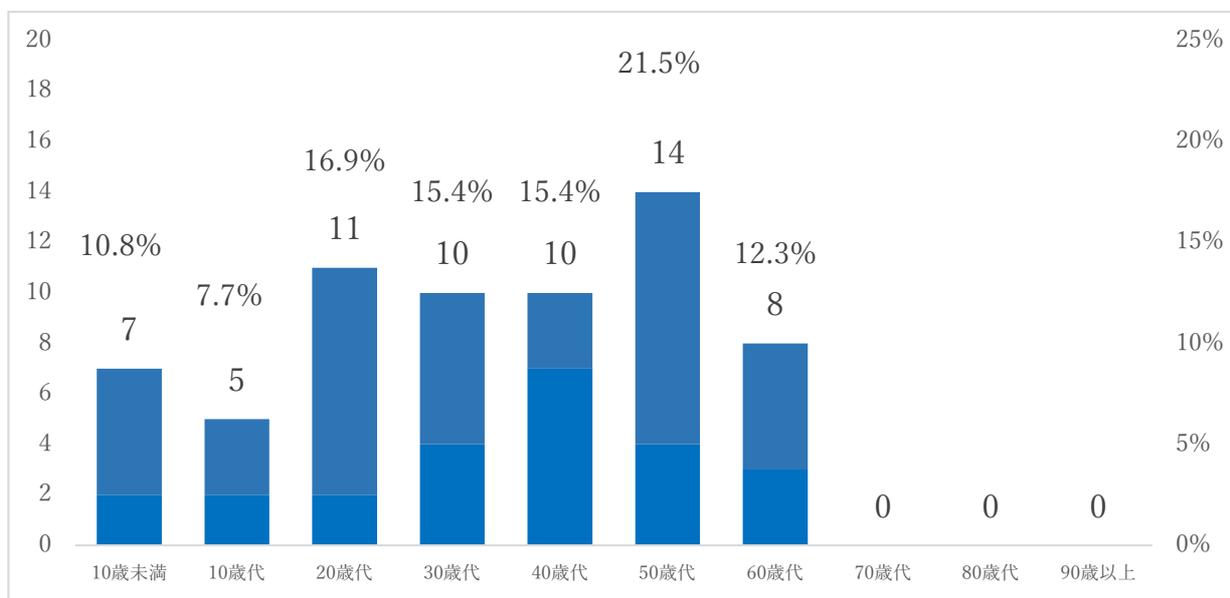
①無症状または軽症で経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）が96%以上の者

②独居または同居者がいても個室隔離や消毒などの感染対策が取れる者

※ただし、上記以外の場合でも、病床の状況により入院調整のため自宅待機となる場合がある。

○人数の推移、年齢構成（2月16日時点）

自宅療養者の年齢構成を確認したところ、20～50歳代が最も多くなっているが、家庭内感染によって、育児・介護を担う年代の人数が多いためと考えられる。



○健康確認などの状況

各保健センターが以下の通り自宅療養者の健康観察を実施

①アプリまたは電話にて1日1回本人の健康状態を確認（必要に応じ訪問）

健康観察アプリについては、2月4日（木）より運用開始。

②体調が悪化した場合については保健センターが連絡を受け（24時間）、病院と調整（必要であれば救急搬送）

③パルスオキシメーターを基礎疾患や年齢、病状などにより貸し出し

○パルスオキシメーターの活用状況

パルスオキシメーターは、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）を測定する機器。以前より各保健センターが10台ずつ保有。

更に、全市で600台を確保（1月20日250台、22日350台）し、運用済み。

○急変の状況

自宅待機中に容態が急変し救急搬送される方は、確保病床の増加と患者発生数の減少により、1週間に1～2名に減少している(自宅療養開始前は毎日1～2名)。

○「自宅療養支援セット」(食料品など)の配布

新型コロナウイルス感染症患者のうち、自宅療養となった方で、療養期間中に自身で食料調達が困難な方に食料等の支援を実施(2月8日～)。

①対象者

療養期間中に自身で食料調達が困難な自宅療養者で、自宅療養支援セットの配布を希望する方(利用者負担なし)

②自宅療養支援セットの内容

- ・10日分の食品(レトルト食品、飲料など)
- ・日用品(マスク、手指消毒薬、ごみ袋、ティッシュペーパーなど)
- ・配付実績 27件(～2月16日)

○自宅療養者への健康観察等における支援

神戸大学大学院保健学研究科の教授(4名)、神戸市看護大学の教授・准教授(8名)の協力による自宅療養者等の健康観察を実施。

(また、家庭訪問による患者調査についても両大学の支援を受けている)

3 感染拡大防止

(1) 相談状況(令和2年1月27日～令和3年2月13日)

相談窓口	件数(件)
①各保健センター(令和2年1月29日～)、 保健所予防衛生課(令和2年1月27日～)	13,292
②専用健康相談窓口(令和2年2月1日～4月7日)	10,707
③帰国者・接触者相談センター(令和2年2月6日～4月7日)	6,089
④新型コロナウイルス専用健康相談窓口(令和2年4月8日～)	74,801
⑤チャットボット相談(令和2年5月20日～) 聴覚障害のある方や電話が苦手な方でも時間と場所を問わず、スマートフォン・タブレット等画面で気軽に相談先や受診先を確認できるツール。	39,224
計	144,113

※専用健康相談窓口最大相談件数：令和2年4月13日1,047件

※専用健康相談窓口直近(1週間)平均相談件数：159件(令和3年2月7日～2月13日)

(2) PCR検査体制について

市内で一日あたり最大 682 検体の検査体制を確保。

(2月時点 24 検体(環境保健研究所のみ)→11月30日～682 検体(当初比約 30 倍)

検査機関名	検査能力	備考
環境保健研究所	142 検体/日	当初 24 検体
シスメックス検査センター	300 検体/日	
市内医療機関	200 検体/日	
医師会設置 検査センター	40 検体/日	検査センター移転拡充 (11/30～) (ドライブスルー方式)
合 計	682 検体/日	

(3) 積極的検査の実施状況

(ア) 医療機関, 福祉施設, 学校園

患者発生の場合, 国基準(濃厚接触者)を超え, 積極的検査を引き続き実施する。

(イ) 酒類を提供する飲食店(8月20日から開始)

地域クラスターに拡大する可能性をより早期に積極的に防止していくため, 11月19日より「基本的に店名は公表しない」こととして積極的に検査申し込みができるようにし, 市内飲食店(約 14,000 件)に 12月11日に通知した。

・検査実績 34 店 203 名うち 11月19日以降では 30 店 183 名

(ウ) 介護・障害入所施設の職員に対する積極的検査

検査資源を最大限・効果的に活用しながら, クラスターの防止と医療提供体制の安定的な確保のために, 特別養護老人ホーム, 介護付き有料老人ホーム, 障害児・者入所施設の直接処遇職員に対して積極的検査を 11月25日から実施。

※施設の職員約 5,900 人(125 施設)に対し順次実施

・検査実績 66 施設 2,822 件

(エ) 陽性患者発生の高齢・障害者入所施設への重点的な検査(12月1日から開始)

高齢者・障害者入所施設において, 陽性患者が発生した場合(新規発生・施設での積極的検査による発生), 上記に優先して, 当該施設の入所者及び直接処遇職員の全員に対して検査を実施。

・検査実績 26 施設(39 回) 1,414 件

4 医療機関支援

(1) 新型コロナウイルス感染症対応医療機関支援補助金

(ア) 入院勧告を受けた患者及び疑似症患者の入院受け入れに対して、

- ・患者1人あたり 12,000円×入院日数（上限20日）
- ・平日1人1回 30,000円，土日祝1人1回 60,000円を加算

(イ) 検査のための検体採取に対して、

- ・令和2年4月1日～5月21日（非常事態宣言中）の採取 4,000円×被検査人数
- ・令和2年5月22日以降の採取 3,000円×被検査人数

(2) こうべ病院安心サポートプラン事業補助金

(ア) 院内感染防止基本対策

個人防護具着脱手順の再徹底研修，iPadなどの感染症患者との遠隔コミュニケーションツールの活用など，市が掲げる取り組みのうち3つ以上の実施に対して，1月あたり30万円

(イ) 院内感染防止追加対策

基本対策に加えて，原則として10床以上の新型コロナウイルス感染症専用ゾーンを1月あたり1週間以上の設置に対して，1月あたり550万円

(ウ) 発熱等救急患者受入れ対策

発熱等の症状を有する救急患者の入院受け入れに対して，患者1人あたり3万円

(3) 遠隔ICUシステム（2月16日現在，6医療機関で導入）

重症化を恐れて感染症患者が市内医療機関から中央市民病院に早期に転送されることを抑制し，中央市民病院が重症患者への対応を重点的に行うことができるよう，株式会社T-I-C-Uが提供する「遠隔ICU（集中治療支援）システム」を市内の医療機関に導入し，T-I-C-Uに登録している集中治療専門医が待機するサポートセンターとネットワークでつなぎ，生体情報モニター，電子カルテ等の情報を共有してコンサルテーションを行う。

また，中央市民病院が感染症指定医療機関としての実績を踏まえ，T-I-C-Uに対して新型コロナ患者に係る知見を共有し，治療方針等の助言を行う。

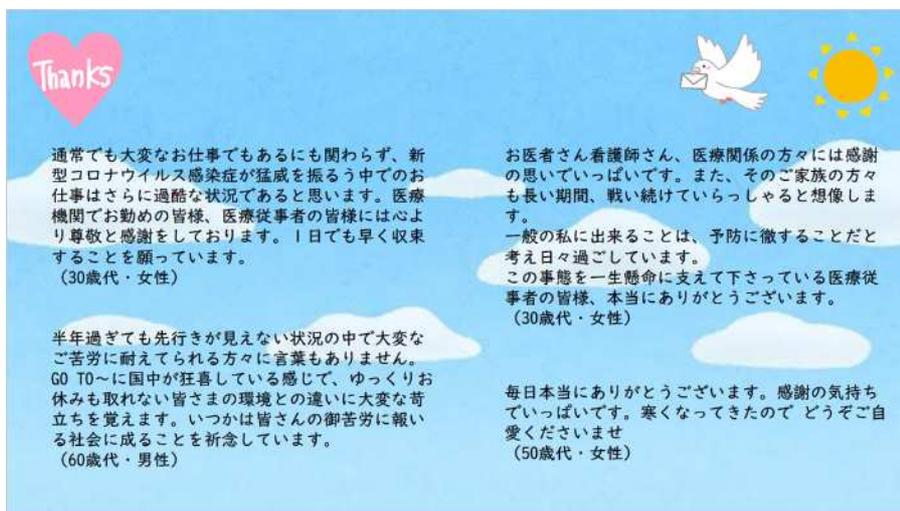
5 風評被害対策

(1) 風評被害対策・正確な情報発信

新型コロナウイルス感染は特別なことではなく誰もが感染する可能性があること、新型コロナウイルス感染症に関わる人々にあたたかいまなざしを送ってほしいことについて、駅のデジタルサイネージ等を活用して啓発（右記参照）。

偏見を生む主な理由として、正確な知識・情報の不足による不安があることから、その不安解消のため、例えば、新型コロナウイルス感染症は空気感染ではなく飛沫感染及び接触感染であることなどの基礎知識や、受診・検査や入退院などのフローチャートを市のホームページに掲載するなど、正確な情報を発信する。

令和2年9月より募集していた医療従事者等へ感謝の気持ちを伝える感謝・応援メッセージ（41件）を市内医療機関等へ送付。



(2) 患者本人や家族等コロナの影響を受けた方へのメンタルケア対策の取り組み

各区保健福祉部や精神保健福祉センターの専用電話等において、保健師及び精神保健福祉士等がこころの相談を実施。

- ・相談件数 275 件（令和2年2月～令和3年1月末時点）

(3) 医療従事者等への心のケアにかかる電話相談窓口の設置

医療従事者や社会福祉施設従事者等に特化して、心のケアを行うことを目的に6月26日から電話相談窓口を設置。

- ・相談件数 152 件（2月15日時点）

(4) 自殺防止電話相談窓口の運営等

精神保健福祉センターにおける自殺防止電話相談窓口の運営（令和2年12月～2回線増設し計4回線）

- ・相談件数（令和2年1月～12月）3,405 件（前年比 115%）
（令和3年1月） 334 件（前年比 124%）

6 市民への要請状況

(1) 「医療崩壊」を避けるためには、市民一人ひとりの自覚、努力、行動が必要であり、以下の感染防止対策を呼び掛ける。

<基本的感染防止対策>

①「日中も含めた人出の多い場所への外出・移動」を徹底して避けること。特に、20時以降の不要不急の外出自粛を徹底すること。

②「大人数での会食」は徹底して避けること。また、通常の食事でも会話はせず、距離をとること。

特に、最近の感染事例から、下記の事項について注意喚起を強化する。

○家族や友人などと一緒に飲食（おやつ等の小休憩含む）する場合、

・真正面を避け、斜め向かいに離れて座る。

横並びや真正面に座る際は、1メートル以上の距離をとる。

・食事中は会話せず、会話は食事後にマスクを着用してから行う。

③国及び県の方針に基づき、在宅勤務や、ローテーション勤務、時差出勤、自転車通勤等、人との接触を低減する取り組みの更なる推進を図るほか、職場における健康管理を改めて徹底いただくこと。

(2) 市民の行動変容を促すために、中央市民病院や保健所で働く職員が医療現場の現状を伝えるメッセージを、Youtube による動画やポスター・チラシ等により発信している（動画再生件数：133,713回）。

また、普段の生活で気を付けるべき感染防止対策を、若い世代へ改めて注意喚起していくため、Twitter や Instagram などの SNS を活用し発信している。

7 新型コロナワクチン

(1) ワクチン接種の意義

新型コロナワクチンは、新型コロナウイルス感染症の発症や重症化を予防するものであり、新型コロナウイルス感染症対策の切り札である。(発症予防効果は約 95%と報告されている。)

多くの市民に接種を受けていただくことにより、

- ①例えウイルスに感染しても、発症や重症化を防ぎ（接種を受けた本人の健康）、
- ②入院患者が減少することにより病床のひっ迫を防ぐこと（発症者・重症者の発生抑制による医療提供体制の安定化）

につながる。

神戸市においても新型コロナウイルス感染症対策の決め手として、市民に迅速でスムーズな接種が行えるよう必要な体制を整えるとともに、より多くの市民に対してワクチンの効果、安全性などの正しいデータを周知することにより、積極的に接種を呼び掛けていく。

(2) ワクチン接種対策室設置（1月18日）

接種率向上や迅速なワクチン接種に向けた体制構築にあたっては、全庁挙げて協力することとしており、事業の進捗に応じて体制を強化する。

(3) 神戸市新型コロナワクチン接種連携本部設置（2月5日）

神戸市・一般社団法人神戸市医師会・公益社団法人神戸市民間病院協会・一般社団法人神戸市薬剤師会の四者合同で「神戸市新型コロナワクチン接種連携本部」を設置。

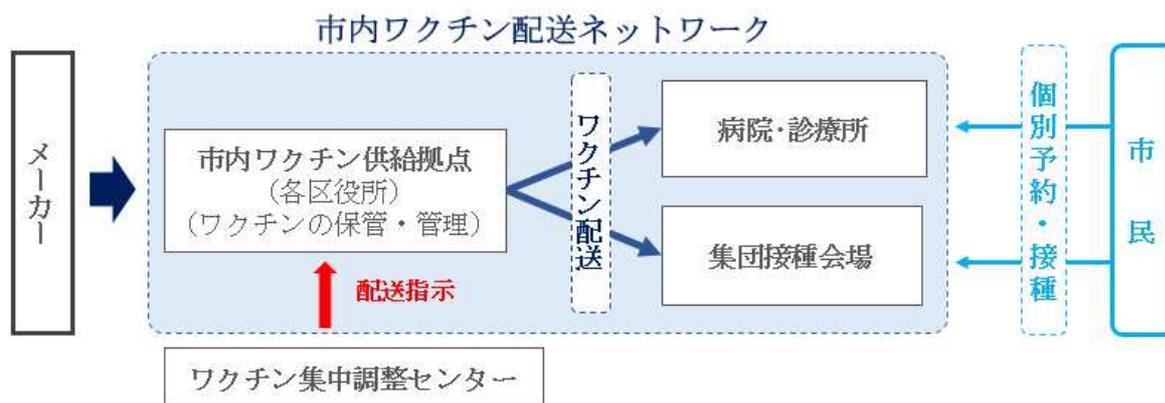
公的病院の協力も得ながら、高齢者をはじめとする一般市民向けのワクチンの迅速な接種に向け、連携して取り組むこととしている。

神戸市	接種券の送付、予約システムの構築、集団接種会場の確保・運営、ワクチン供給調整等
神戸市医師会	集団接種会場への医師出務の協力、診療所等での個別接種
神戸市民間病院協会	病院での個別接種、集団接種会場への看護師出務の協力
神戸市薬剤師会	集団接種会場への薬剤師出務等の協力、ワクチン管理

(4) 接種体制の構築

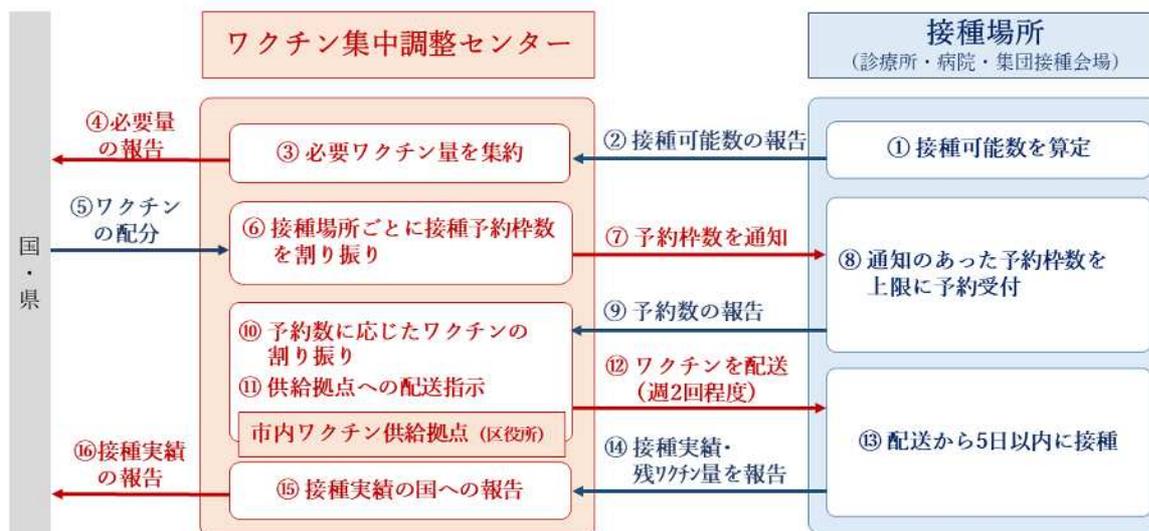
①市内ワクチン配送ネットワークを構築

区役所（市内 10 か所）に超低温冷凍庫を配置しワクチン供給拠点を設け、効率的な市内ワクチン配送ネットワークを構築することで、個別医療機関と集団接種会場での接種を組み合わせる体制を確保。個別医療機関と集団接種会場を組み合わせ、市内在住高齢者 43 万人に対し、3 か月間で 2 回接種が可能な体制を確保することにより、高齢者以外の方に対する接種についても迅速に進める。



②ワクチン集中調整センターの設置

数多くの接種場所においてワクチンを無駄なく接種するため、神戸市内にあるワクチンの状況を網羅的に把握し、必要な接種場所に、必要な量を即時に配分できるよう、市内の需給量を集中して調整する、「ワクチン集中調整センター」を設置。



(5) 市内医療機関を支援

新型コロナウイルス感染症対策に迫られる医療機関に対し、ワクチン接種にあたって、さらなる負担が生じることを避けるため、ワクチン管理や、接種対象者との予約調整、接種記録の処理等にかかる事務を支援し、スムーズで迅速な接種につなげる。

(6) 想定スケジュール

3月1日(月)	専用コールセンターの開設
3月14日(日)	集団接種会場におけるシミュレーション
3月下旬以降	接種券(高齢者優先接種)の郵送 予約受付の開始
4月以降	高齢者優先接種の開始(3ヶ月程度での終了を目指す)